

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493100067
法人名	社会福祉法人 地域サポート虹
事業所名	グループホーム さくらそう
訪問調査日	令和2年8月20日
評価確定日	令和2年10月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 事業の開始年月日, 指定年月日, 法人名, 事業所名, 所在地, サービス種別, 定員等, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさくらそうは利用者様6名の小さなホームです。利用者様はご家庭の暮らしのような生活をしています。日中は居間で過ごしています。おしゃべりをしたり、洗濯物を干したり畳んだり、体操したり歌ったりして和やかに過ごしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価機関評価決定日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人地域サポート虹の経営です。同法人は、横浜市栄区を中心に地域のボランティアから発展し、介護と子育ての事業を展開しています。介護事業については、通所介護・訪問介護・小規模多機能(2事業所)・介護相談窓口・グループホームを6事業所を運営しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

Table with 3 columns: 評価項目の領域, 自己評価項目, 外部評価項目

事業所名	グループホーム さくらそう
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とはなんだろう。観念でもなく。実践できる理想の事でしょうか。ホームの理念は人や地域との交流を進めて地域貢献しながら、優しい触れ合いを広げていくことと思っています。職員も管理者も思いは同じであり、その道に向かっていきます。	ホームの理念は「①人を大切に②ふれあいの輪を広げる③今という瞬間を、その時を大切に」となっており、常に目の届く食堂や事務所に掲示して意識化を図り、スタッフミーティングで必ず復唱し、職員一人ひとりができる事を見逃さず、出来る事を探し、生きる力を互いに確かめて優しいケアを目指しています。	今後の課題
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会して、地域のイベントに参加しています。H26年には自治会組長を担いました。ホームの避難訓練には自治会の方や消防団の方々にも参加を頂きご意見を賜っております。	自治会に加入して、回覧板を廻しています。以前、自治会組長を担った年もありました。地域の方々には、運営推進会議や避難訓練等に参加していただき地域の情報など頂いています。ボランティアは視覚障害の方の演じる朗読会や浴衣を着て楽しむなどを行いました。現在は新型コロナウイルスの影響で自粛しています。	今後の課題
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学者や来訪者を受け入れております。見学者の方には認知症の理解や支援のために、長く相談時間を設けております。「運営推進会議」などで意見交換をしています。地域ケアプラザの「家族の集い」など参加した事例があります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様、地域ケアプラザ職員様、自治会役員様に会議に参加して頂き意見交換をしています。認知症への理解や介護の中の職員の葛藤など率直にお話ししてアドバイスも頂いています。会議での評価は職員にとっても励みになり、また意見は介護の質の向上に繋がります。	通例であれば、2ヶ月に1回運営推進会議を開催していますが、今年は新型コロナウイルスの影響で回数を減らしています。メンバーは、管理者、ケアマネ、地域包括センター、家族に参加して頂き、活動状況、事故、ヒヤリハットの報告を行い、参加者から率直な意見、要望を頂き、頂いた意見は介護の質の向上に繋がっています。	今後の課題
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	港南区から介護相談員を2か月に一度お受け入れしています。委員の方は利用者の方々と交流して、利用者の方の生活の様子やホームの介護について視て頂いています。横浜市主催の「介護の日&よこはま健康フォーラム」に参加もして介護相談も行った実績もあります。	市や区から頂いた研修案内に毎年参加しています。また、横浜市主催の「介護の日&よこはま健康フォーラム」に法人で参加し、相談ブースを開いて介護相談やパンフレットの配布を行っています。地域包括センター主催の「家族の会」、「防災を考える会」に参加しています。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の適正化のための検討する委員会」を開催し広く地域から知見を頂く。またホーム内には拘束についての掲示を行い意識化を図る。年間2回は身体拘束や虐待についての研修を行う。指針も示す。	「身体拘束の適性化のための検討する委員会」を運営推進会議の内で開催し、参加者に理解して頂いています。また、ホーム内に拘束についての掲示を行ったり、身体拘束や虐待の研修を年2回、職員会議時に行い職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	今後の課題
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のために常にオープンな施設運営をしている。ご家族は毎日のご来訪し尊厳に満ちた生活実態を見て頂いている。見過ごされているような点があれば注意喚起する。職員には「自己点検シート」を配布してチェックをして課題を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見人との話し合いの実績もあります。権利擁護については、介護者としての矜持を持ち、倫理を学び、利用者の尊厳を尊ぶように研修しています。施設内にも掲示。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前には事前に施設の見学を本人やご家族にして頂き、ご理解や納得を頂き契約の締結を行っています。また介護保険の改正時などには説明させて頂いております。ご質問にも随時お答えしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「運営推進会議」には利用者やご家族が参加をし意見や要望を表明しています。また、日々の生活の中で利用者はスタッフに要望を訴えています。ご家族からも常に忌憚のない意見を頂き、運営に活かしています。	運営推進会議に家族が参加をし意見や要望を頂いています。また、家族の来訪が多くその際に、ホームの実態を見て頂き、スタッフとも顔の見える関係になっていることで意見や要望などが伺いやすい雰囲気となっております。頂いた意見や要望は、出来る限り、ホームの運営に反映させるよう取り組んでいます。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回は職員が参加するミーティングを行い職員の意見を提案する機会を設けている。また、個別の要望は管理者や施設長に表明している。管理者や施設長は意見や要望に応えるように相談を行っている。また全事業所の連絡会でスタッフの意見や運営状況を報告検討している。	月1回の職員が参加するミーティングで職員の意見を提案する機会を設けています。また、申し送りノートからも意見等を拾い上げています。個別の要望は、朝の申し送りや面会などで、管理者や施設長に相談を行っています。また、月に1回法人の連絡会でスタッフの意見などを報告しています。	今後の課題
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト調整はスタッフの要望に沿って行っている。健康診断も行っている。各スタッフの目標設定を行い達成感を持てるように促している。スタッフの意見の反映があるとやりがいも満ち、質も向上する傾向にあり意見を拾っていくように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月に一度は行っている。また外部研修も掲示して参加を促す。資格取得のための研修の案内も提供する。新人には資料を提供しながら実践的指導も行う。（コロナの影響で今年度は研修の中止があり）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加。ケアプラザ内の勉強会にも参加。ケアネットなど案内。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人や家族から困りごとや要望を伺って、サービスに反映できるようにしている。聞き取りの他に、ニーズや生活歴や既往症、生活パターンを把握するためにアセスメントに記入も頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や相談で来訪された際に、困りごとや要望を伺っています。家族にとって施設に入所を決めることは、大きな決断になります。不安のないように家族にも寄り添い、訴えを伺っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の面談の中から主訴を見極めてホームの生活に入っていけるように支援を考えています。既往症や生活歴を参考に、ホームでできることを探してスタッフが評価を繰り返し、その都度必要な支援を提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは常に「ありがとう」の言葉を口にして感謝を伝えます。利用者の方はサービスを受ける事を受容するには、尊厳を保つ事が大切です。共に暮らすことをスタッフ自身が意識し、本人の意向を伺えるように協働していくように心がけています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には希望に沿ってホームに来訪して頂いています。毎日来訪されて、マッサージなどされています。また、御家族と共に散歩や買い物に出かけ好みの食べ物など購入されたりしています。誕生日会に家族が参加されて共に祝いもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味のサークル仲間のご来訪や友人のご来訪もありました。以前利用していたサービス提供所のスタッフの来所もありました。近隣の公園のイベントで旧友にも会うことができました。	日頃から家族の来所は多く、毎日来られる家族もおり、利用者にとって一番の馴染みの関係が維持できるよう、支援に努めています。また、趣味のサークル仲間や友人、馴染みの理美容の方に来訪して頂いたり、近隣の公園のイベントやお祭りに参加した際に、旧友と出会うことも多く、旧交を温める機会になっています。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの利用者様は日中には居間や食堂ですごしています。TVを観たり、おしゃべりしたり。協力して洗濯物を畳んだり。その関係の中で気性や相性を考慮し席を決めています。また、体調の悪い方を気遣う様も見られます。思いやりを育む関係の中で穏やかな暮らしをしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族が手配をして下さり獅子舞が毎年訪れています。入院された方のお見舞いを続けていました。お亡くなりになった方のご家族がおりにふれ来訪されています。七夕の笹も頂いています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の活動記録の中に発した言葉や生活の様子を記入し変化を把握しています。また、特に目立った事は申し送りノートに記入しスタッフに周知しています。希望を言葉にできない方には、本人の希望がどこにあるのかをスタッフが話し合いながら、より良い支援を考えて行っています。	利用者の活動記録の中に発した言葉や生活の様子を記入して変化を把握し、申し送りノート等を活用しながら、スタッフミーティングで話し合い職員間で情報を共有しています。意思表示や思いを伝えることが困難な方には、表情やサインを見落とさないように注意して支援しています。	今後の課題
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族から聴き取りを行い、生活歴や生活環境等について情報を得てから、サービスを開始しています。家族にアセスメントを記入頂いています。また、入所前にサービスを利用していた方は事業者から情報を提供して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録は担当スタッフは必ず記入しています。申し送りは交替時に必ず行って、夜間の様子や日中の様子を把握しています。細かな情報やその都度のスタッフの意見など申し送りに記入し確かめ合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からなじみの暮らしや既往症を伺い、医師の診断を活用して初回のサービス計画書を作成します。その後スタッフが評価をし、家族や医師、歯科医、准看護師の意見を参考にサービス計画書を作成しています。変化があれば（入退院後等）にその都度刷新しています。	入居時にパーソンセンタードケアを家族に記入して頂き、それをアセスメントシートにおとし、計画作成者が介護計画書を暫定1ヶ月作成しています。その後、3ヶ月に1回見直し、スタッフ会議で行っているケアカンファレンスでの職員意見等を基に、家族や医師、歯科医、准看護師の意見参考にしながら介護計画書を見直しています。	今後の課題
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に作成しています。また、排泄チェック表や体温表など目的に応じて作成し情報共有に活用しています。小さな体調の変化や精神的に不調の予兆を把握し、介護の課題や計画の不足を表出して計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全事業所の報告会から情報を得て、色々なニーズに対する状況を勉強してサービスに生かす。また、主治医や歯科医、准看護師からも情報提供頂き支援の多機能化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のイベントに参加する事が利用者の励みになっています。近隣の公園で行われるお花見や鯉のぼりが揚がる子供祭りや、夏祭りや長寿を祝う会、地域の小学校で行われる地域の運動会など地域の方々との交流は大切な出来事になっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の下にかかりつけ医の方に訪問診療頂いています。現在は2か所のクリニックから訪問診療頂いています。また歯科医にも希望の方には訪問で口腔内をケア頂いています。先生方には随時ご相談や診療頂ける体制になっています。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、利用者・家族の意向を尊重して主治医を決めて頂くようにしています。現在は、2ヶ所のクリニックから訪問診療が来訪されています。歯科は希望者のみ口腔ケアや検診を受けています。看護師は、法人職員の准看護師が週1回健康チェックに来て頂いています。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の准看護師が健康診断を週に一度行っています。体温表（1週間の体調の記録）を参考にしてコメントを頂いています。それぞれの主治医に准看護師の所見を伝え医師の参考にして頂いています。スタッフも情報交換をしてケアに活かしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	末期の胆管癌で入退院していた方がいました。担当の医師と十分に話し合い早期退院を行い、また体調不良時には入院も速やかに行われました。他の方の入院に際しても、既往症やケアでの状態などの情報を提供し連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは重度化し終末期を迎えた方のケアを体験して参りました。その都度学びとった知見を大切にするとし、研修などを通じて終末期の在り方を考えて、家族にも話し合いを行えるようにしております。衰え終わろうとする関係は当人にも家族にも苦しみを伴うもので、深い心を要する支援を心掛けています。	ホームでは重度化し終末期を迎えた方のケアを体験してきました。その都度、看取りや終末期の尊厳死やACPについての研修も行い、終末期の在り方を考え、重度化した際に家族の意向を尊重して、可能な限り要望に対応して利用者や家族に寄り添いながら、医師や看護師と連携し、終末期ケアに取り組んでいます。	今後の課題
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで研修を行っています。意識レベルや発熱の特変を読み取るための訓練により意識化を図っています。緊急時対応を大きく掲示しています。個人の緊急時対応用の袋を用意して全スタッフが対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年に2回開催している。地域の自治会や消防団、ケアプラザ職員さん等にも参加頂き、ご意見を頂いている。避難計画書を大きく掲示している。ハザードマップも参照。職員は真剣に訓練に挑んでいる。	夜間想定避難訓練を同年6月と9月に開催しています。うち1回は消防署職員や自治会、地域包括支援センター職員、利用者、家族、同建物1階に入っている事業者にも参加して頂き、アドバイス等を頂き参考にしています。また、近年自然災害が多いことから外出イベントの際に脱出訓練を行ったりもしています。備蓄は、飲料水、食料などを用意しています。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の概念の中にはスピーチロックと云う概念があります。言葉によって行動を制限した誇りを傷つけないようにと研修で繰り返し伝えていきます。職員の疲労から利用者の対応がおろそかにならないように職員の心理にも気をかけています。	日々、利用者と接するうえで、利用者の尊厳を損なわれないような対応を心がけています。特にスピーチロックを含む言葉の拘束については注意を払い、尊厳について研修を行っています。実際に不適切な対応や声掛けが聞かれた場合には、本人が気付くように対処し、適切な対応や言葉掛けを実践するよう取り組んでいます。		今後の課題
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とスタッフが自然な信頼関係を築いていけるように心掛ける事で、利用者は思いやりや希望を口にすることができています。その思いに沿った支援をしております。また、言葉を口に出来ない方の身体的サインを見逃さず本人の望みに沿えるように努めていきます。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や離床、就寝時刻は出来る限り、希望や体調に合わせています。日々変わっていく体調や心理状態に合わせて、入浴や食事内容、レクリエーション等考慮して支援しています。ホーム内は重度化した方が多く活発な活動が難しくなっていますが、工夫をして楽しく過ごして頂けるようにと思っております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日希望に沿った洋服を身に付けて頂いておりますが、自己決定ができない方も多くいます。スタッフは季節にあった衣類を身に付けて頂けるように心掛けるとともに、色々な組み合わせを楽しんで頂いております。また、訪問美容師さんに来訪頂きヘアカットを2か月に1回行っています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化した利用者が多く準備や片付けのできる方が少なくなっている中で、できる事を探しています。ランチマット拭きやテーブル拭きは力の弱っている方にもできる事として行って頂いております。おやつや購入や生協への食材の注文を伺い楽しみとなるメニューを一緒に考えています。	食事は業者に食材を注文しています。注文は利用者に食材を伺い、楽しみとなる食事メニューと一緒に考えています。行事や誕生日では、家族の要望でレストランに食事に出掛ける方や誕生日会でテーブルクロスで華やかにして、スタッフがケーキを提供し、食事を楽しんで頂いております。		今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら食事内容や量を調整しています。糖質過多にならないような食事を提供するように心掛けています。摂取量は毎食記録し、一日の中での必要量を摂って頂くようにしています。水分量も季節に応じて調整しています。また普通食を摂れない方にもカロリーを記録して支援してます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをしています。訪問歯科によって口腔ケアを受けている方もいます（現在は中止、コロナにより）歯間ブラシや歯ブラシを使い分け、うがいの困難な方は口腔ケア用のペーパーを使ってふき取ったりしています。飲み込みの悪化した方には口腔マッサージなど行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を取ってそれぞれの方の排泄パターンを考察しています。習慣や体調を考慮し尊厳を保ちながら声掛けをして支援しています。本人が訴える事が出来ない方には、排泄パターンを理解するだけではなく、身体的サインを読み取り支援するよに努めている。	排泄チェック表に排泄の記録を取って、個々の排泄パターンを確認し、習慣や体調を考慮して尊厳を保ちながら声掛けを行っています。夜間の対応は、個々に応じて対応しています。便秘対策では、ヨーグルトや繊維質の食べ物を提供し、水分も積極的に摂取して頂いています。また、主治医と相談しながら排泄を促す薬を服用することもあります。	今後の課題
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付けスタッフ同士その日の排便状態を把握しています。排便のパターンを理解し、水分量を保ち便秘を防ぐように促しています。体操や腹部マッサージも行っています。ヨーグルトなども提供。主治医と相談しながら体に影響の少ない薬を適宜服用する時もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度化した利用者が多く、スタッフは協力しながら利用者の入浴の支援を行っています。体調や気持ちに沿って個々のタイミングで入浴をしています。	入浴は、月・水・金の午前中に入浴をしています。入浴日は職員の配置を増やし、職員2人体制で入浴支援を行っています。入浴拒否のある方は、その方の体調を考慮しながら入浴を行うか決めていきます。重度化の方は、スタッフが協力しながら対応し、ミスト浴、シャワー浴の方には足湯など行いリフレッシュして頂いています。	今後の課題

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻はそれぞれの希望に沿っています。自室でTVを観て過ごす方や、音楽を聴きながら眠りにつく方、暫く食堂や居間でTVを観ながらスタッフと談笑される方など様々です。現在は安寧し過ごしている方がほとんどです。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援を円滑に行うために個々の薬ケースに薬の管理を行い、ケースには服薬情報を貼ってあります。服薬に変化があった際にはケースに情報を添付しメールで情報共有しています。記録にも服薬者、確認者のスタッフ名を記入しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を担う事は利用者の方々にとっては、生活の続きであり大切な歴史です。現在利用者の方々には出来る事が減っていますが、洗濯干しや、洗濯畳み、新聞整理やテーブル拭きなどして下さっています。読書や折り紙、塗り絵、庭の水遣りなど小さな楽しみを重ねて暮らしの充実を計っています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染予防のために外出は出来ません。せめて中庭へ出てお花を愛でています。	現在は新型コロナウイルスの影響で外出は難しい状況ですが、暖かい日には中庭の花壇に水をあげたり、お花を観賞しています。また、事業所で体操や日光浴等を行っています。車の外出に付きましては、人員が手配出来ればドライブや毎年行っている芋掘りなど行く計画を立てています。		今後の課題
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる事が少なくなっています。外出ができた時は、買い物などの際にお財布を使ってお金を出したりしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在コロナにより家族との面会が制限されています。手紙のやり取りや電話をかけてお話ししたりしています。また、家族にラインで動画をお送りしたり、メールで写真を送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合わせた花や庭で採取した花を飾って季節を感じて頂いています。また壁には利用者の方々に季節や行事に合わせた壁飾りを作り、皆様の意欲を促しています。温度や湿度も管理し心地良い空間になっています。また空気清浄機や加湿器も設置しています。	リビングとダイニングが別になっており、リビングで歌やDVDを観ている方やダイニングでテレビや雑誌を観たりするなど、利用者が居心地の良い場所で過ごせるように支援しています。居間には中庭で採った花を飾ったり、壁には利用者が作成した季節や行事に合わせた飾りを飾っています。温湿度も管理し心地良い空間となっています。	今後の課題
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	住み分けのできる工夫をしています。居間ではDVDを掛けて歌を聴き過ごす方、食堂でTVを観ながら談笑したり。個室で少しの午睡を楽しむ方など思い思い過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物をお持ち頂いております。仏壇やタンス、人形など。また家族の写真などで記憶を呼び覚ましています。TVも持って来られて就寝前に楽しんだりしています。	入居時には使い慣れた家具や備品を持込んで頂き、馴染みの物に囲まれながら居心地良く過ごせる空間を作って頂くようにしています。居室には仏壇やタンス、家族の写真、テレビ、カセットデッキ、人形が飾られる方もいます。家族が衣替えを行う方や必要に応じて、新しい洋服をお持ちになる方もいらっしゃいます。掃除は毎日職員が清掃を行っています。	今後の課題
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中は個室にこもることがないように生活しています。建物内のトイレや洗面台はわかりやすい構造になっています。小さな空間のために混乱し間違える事は殆どありません。個室も各部屋の作りが違い分かりやすくなっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームさくらそう

作成日

令和2年8月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	スタッフの力量の違い	自身で考えたケア	それぞれが個別の目標設定を行い、達成状況进行评估する。	通年
2	33	終末期の過ごし方	家族の思いと本人の暮らしの融合	ACPを学ぶ	通年
3	34	緊急事態にスタッフの対応力が違う	スタッフが緊急時対応に落ち着いて対応できる	知識の取得と訓練	通年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。